## ワーク４　速やかに復興するために必要なことを考えてみよう

**住民の皆さんができること、行政に望むことについて意見交換しました。**

| | 住民ができること | × (かける) | 行政にしてほしいこと |
|---|---|---|---|
| 災害への備え  | ・地域の楽しみ事に防災を取り入れる<br>・災害対応型給油所の場所を把握しておく<br>・風呂の水を貯めておく | 自助・共助・公助 | <br>・住民に薬を提供できる供給元を確保する<br>・災害の情報や防災の取り組みについての周知を強化する<br>・市内各地に井戸を整備する |
| 被災時の助け合い  | <br>・人とのつながりを作っておく | | <br>・「個人情報」の制限を緩和する（昔に比べ制限されているため、隣近所で顔の見える関係が薄くなっている）<br>・要配慮者の避難先を確保する |
| 復興まちづくり | <br>・地域の祭りやイベントを継続させる<br>・子ども向けのイベントを開催し、参加する親世代のつながりを築く | | ・災害時に資源（生コン等）を確保できるように、安全な場所に工業団地を整備する  |

### ●お知らせ

ホームページ上に掲載した「意見投稿プラットフォーム」でも意見を募集していますので、気軽にご回答ください。

### ●お問い合わせ先

高知市　防災政策課　事前復興まちづくり担当
TEL：088-823-9055　FAX ：088-823-9085
Mail：kc-080200@city.kochi.lg.jp



# 高知市 事前復興まちづくりニュース VOL.2

R８.８.28

# 中央地区 事前復興まちづくり計画 第２回ワークショップ（はりまや地区）を開催しました！

地域の方 ５名参加

意見交換１は２ページ、意見交換２は３ページ、
ワーク４は４ページに表示しています。

７月30日（木）、高知市文化プラザかるぽーとで、中央地区事前復興まちづくり計画第２回ワークショップ（はりまや地区）を開催しました。意見交換１では**「中央地区の復興ビジョン」**、意見交換２では前回の復興パターンから地域の方の意見を反映した**「修正復興パターン」**、ワーク４では**「速やかに復興するために必要なこと」**について、みんなで話し合いました。



### ●ワークショップの進め方・内容

**第１回**　令和８年４月14日開催　済

| | |
|---|---|
| ワーク１ | 中央地区の良いところ・残したいもの、普段の生活で困っていること |
| ワーク２ | 復興パターン２案について |
| ワーク３ | 楽しくなるような未来のまちを想像する |



**第２回**　令和８年７月30日開催

| | |
|---|---|
| 意見交換１ | 復興ビジョンについて |
| 意見交換２ | 修正復興パターンについて |
| ワーク４ | 速やかに復興するために必要なこと |



**第３回**　令和８年11月頃開催予定

| | |
|---|---|
| 意見交換３ | 最終案について |
| ワーク５ | 災害が起きる前からできること |

## 意見交換１　中央地区の復興ビジョンについて話し合いましょう。

**各地区での第１回のご意見から復興ビジョンを３案作成し、意見交換しました。**

### ○ワークショップをもとに考えたビジョン案

**案１（第１回ワークショップで提示済み）　「コミュニティ・多世代」を主軸とする案**

**『世代を超えてつながる　安心とにぎわいが持続するまち』**

高知市中心部、都市機能誘導区域を含むエリアにおいて、職場と住まいが近接した、歩いて暮らしやすい都市構造を生かしながら、子どもから高齢者まで、多様な人たちが共に暮らせる復興を目指す。通勤や通学、買い物、医療・福祉、文化・交流の機能を身近に備えた高知市中心部に、人々のにぎわいと笑顔が自然と集まり、誰もが自分らしく、楽しく、災害に強く、安心して日常を送ることができるまちへと再生していく。

**案２（ワーク１～３の意見を踏まえた案）「防災・利便性」を主軸とする案**

**『いつもの便利がもしもの安心へ　利便と防災が融合する災害にも強いまち』**

中央地区は、路面電車や充実した周辺施設など、日々の暮らしやすさが大きな魅力となっています。普段の便利な生活を守りながら、それが災害時の安心にもつながるよう備える「災害に“も”強い」をキーワードに、普段の延長線上にある防災」を目指すものです。マンションで暮らす人も、戸建てで暮らす人も。互いの顔が見える距離感の中で、いつまでも自分らしく健やかに暮らせるまちを目指します。

**案３（ワーク１～３の意見を踏まえた案）　「資源・にぎわい」を主軸とする案**

**『歴史文化と安心を守り抜く　笑顔あふれるにぎわいのまち』**

これまで大切にしてきた「よさこい祭り」や地名に宿る記憶は、地域コミュニティの絆そのものです。この大切な歴史文化を「日々の安心」という土台の上に守り抜き、次の世代へと継承していきます。商店街や市場でお買い物を楽しみ、その活気を育むことは、誰もが暮らしやすい「安全なまち」を創ることにもつながります。安心して歩ける川沿いの散歩道や、誰もがワイワイと交流できる場所をみんなで守り、笑顔がたえないまちを目指します。

### ○議論したものを、発表していただきました！

**３つの案の主軸としているものを組み合わせたものにしたい**

- 3案全て必要である（第1回で出た意見が全体に散りばめられているため、1つに絞ることができない）
- 世代を超えて繋がることが重要である
- 井戸の整備を強化するなど、災害に強いまちにしたい
- 空き家問題を解決したい
- 「桜並木」などの資源、にぎわいが重要である





各地区の意見をまとめ、第３回ワークショップで最終的に中央地区のビジョンをお示しします。

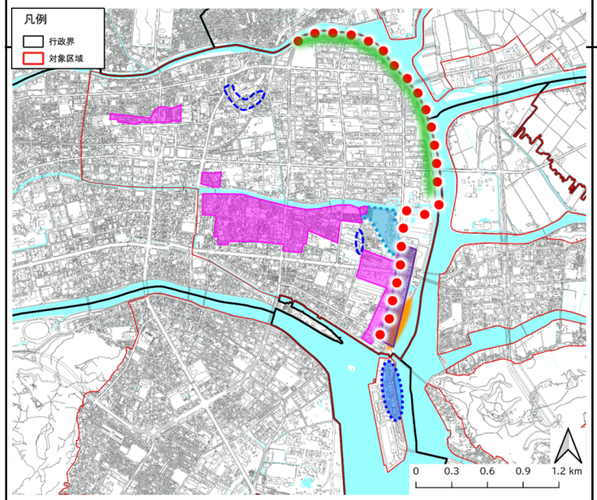


## 意見交換２　修正復興パターンについて意見を共有しましょう

**修正復興パターン２案について意見を共有しました。**

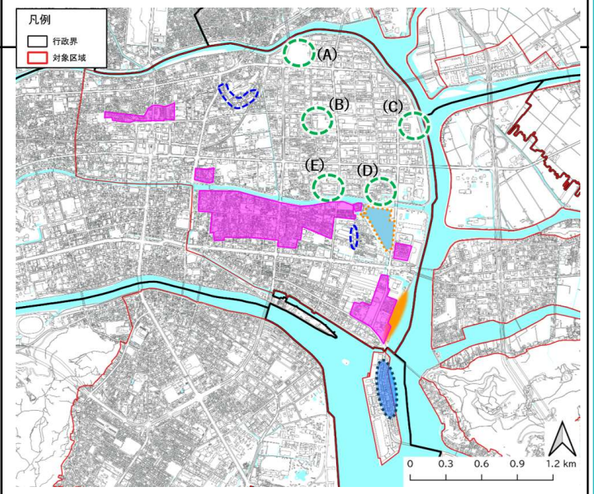
### 【第1案】二線堤形成案

●広範囲な市街地の津波安全性の向上、二線堤を形成し広範囲に市街地を守る案



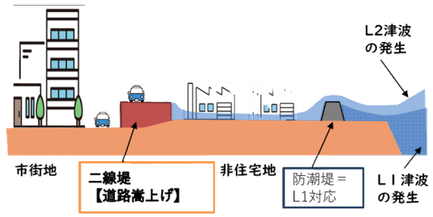

### 【第２案】現地再建案

●面的整備と津波避難機能の強化による安全な市街地復興を形成する案



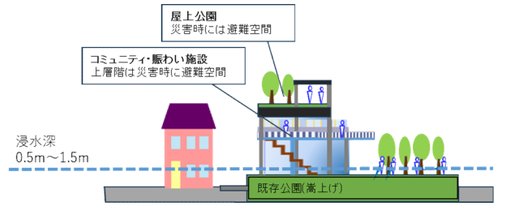

**【第１案】**

・江ノ口川より南側（下知エリア）の二線堤を整備するのは難しいのではないか




**【第２案】**

・より早く復興できるのではないか
・弥右衛門地区だけでなく、下知・はりまや地区（特に常盤公園付近）にも防災拠点を整備したい
・防災拠点を整備する際、杭が必要となるため、費用が高くなってしまうのではないか




**【その他の意見】**

・区画整理を検討したエリアについて、南宝永町の一部地区を対象としているが、もっと広い範囲で検討するべきではないか
・火災が心配である
・過去の南海トラフ地震による浸水状況を示してほしい（参考にしたいため）

